

20161109_銀座農業政策塾第5期第6回_議事録

日 時：2016年11月9日（水）19:00-21:00

場 所：東京・銀座 ルノアールマイスペース銀座マロニエ通り

テーマ：第5期生からの発表（事例紹介、課題設定と解決策）

農的社会概論

発表者：蔦谷栄一さん（農的社会デザイン研究所 代表）

参加者：参加者 12人（発表者を含まない）

（会社経営、会社員、公務員、NPO法人理事長、行政書士、司法書士など）

第5期生からの発表（事例紹介、課題設定と解決策）：

A班 市民農園、体験農園の調査研究「JA 東京むさし、アグリメディア、生活クラブ生協」

B班 CSA の調査研究「つくば市にある飯野農園」

C班 成田空港周辺農業の調査研究「自給農園ミルパ」

蔦谷栄一さん「農的社会概論」：

農業があらためて話題になっています。「攻めの農業」、「競争力、所得の向上」がキーワードとなっています。一方で、消費者と一緒に作っていく農業もキーワードになっています。ベクトルが両極に分かれています。農政は大規模農業に偏重しています。一方、都市で住民が農業に関わっていきたい、体験したいというニーズが強くなっています。ベクトルを合わせることが大切です。農業は「農」という大きな括りの中に位置付けられます。農は、生産、消費、暮らし、あるいは、生業という幅広い概念であり、暮らし全体と関わります。「工」は、土地に根付かなくてもでき、自然の制約はありません。しかし、農は自然に影響されます。農は、持続性、循環などお金に換算されない価値を有し、命を大事にすることにつながります。健康や身体に良いということ、環境等は、経済価値、コスト低減よりも大事です。農の世界を農業に取り込んでいく必要があります。

大規模農業がないと一定面積を利用しての安定生産ができません。しかし、それだけだと、国際競争にさらされて輸入物にいつかは代替されてしまいます。そこで、地域農業のコンセプトを明確にする必要があります。日本は農地の近くに消費者がいます。米国、豪国などの新大陸型の農業とは違うところです。地域農業のキーワードは循環です。地域資源を活かして、多様な担い手により行われ、地産地消等によって消費されます。このため、多様な農業となります。大規模農業もありますし、市民農園、体験農園、CSA も含まれます。地域農業は大規模農業だけでは維持できず、プロフェッショナルとアマチュアが一緒に作るものです。

コミュニティ農業は人と人の関係により成り立ちます。消費者が農家に対して再生産できる所得を補償します。また、人と自然が共生できる農業でもあります。地産地消していく中で、自給を意識することも必要です。自分たちに必要なものは極力自分たちで作っていくことです。しかしながら、農業だけで付加価値を作るのは難しいことです。地域循環のために農商工などの連携が必要となります。

農業の危機は、社会、地域の危機を象徴しています。社会は変革の時期に来ています。新自由主義が行き過ぎ、所得格差は顕著に拡大してしまいました。これが、ブレイグジット、トランプ次期米国大統領等の新たな流れを招くことにつながっています。行き過ぎをリセットすべきではないかということです。市場経済原理とグローバル化により、多国籍企業と国家との関係も変わってきました。国家のコントロールできる領域が限定されてきています。また、GDP競争の加速が矛盾をさらに深めている。国家のあり方が問われているということでもあります。

農業を変えていくことは、社会全体の構造を変えていくポイントになるのではないかと考えています。生命原理への回帰といえます。これを象徴する動きが田園回帰現象です。また、CSAやダーチャです。時間はかかるがこの方向しかないのではないのでしょうか。その先に、成熟社会があります。

農は社会を変革していくいくつもの能力を有しています。まず食料供給能力ですが、自ら少しでも自給していくことがポイントとなります。産業としての農業は消費者に提供するためにありますが、いざという時には自らが自らを守っていくことが必要となります。また自立能力ですが、現代人の自立については疑問符が付きます。工業化社会により人は大きな組織に隷属するしかなくなりました。これからの社会では、自分の判断により行動できる能力が求められています。若者の田園回帰現象の根っ子にあるものはこれではないでしょうか。自立をしたいという意識があるということです。田園であれば、大工、商店、多様な経験ができます。さらにコミュニティ形成能力、教育能力を持っており、これらを発揮させていくことが必要になります。管理社会であればあるほど、人間は商品として労働を売るだけになります。仕事に人生をかけるという実感を持つてなくなります。このように社会は行き詰っています。改善しなくてはなりません。農には生きているという実感を持つことができる力があります。農に参加することで、様々な能力を発揮することができます。地域農業はこうした能力をも含めた多様性に富む農業であると位置付けることができます。農には参画し、つながり、変えていく力があります

ローカル化によるグローバル化への対抗が必要になっています。地域で当たり前暮らすことを評価し見直すことも必要です。このためには、地域の価値を掘り下げるべきです。現金依存の世界から逃れ、お互いに物を交換し、助け合う。また、お金をなるべく使わない世界。グローバル化を進める人たちが嫌がる世界。これが、農的社会です。

以上